日本史Ａ，日本史Ｂ

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

日　本　史　Ａ

１　前　　文

３年目の共通テストとなる日本史Ａの受験者数は2,411人，平均点は45.38点であった。

全科目共通の問題作成方針に加えて，日本史の問題作成方針には，「事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお，評価に当たっては，14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

第１問　明治時代以降に発行された切手に関する二人の高校生の会話文を題材にして，明治から昭和までの出題がなされた。政治史，文化史，社会史に関する小問を中心に構成され，史料を用いた設問もみられた。

問１　明治初期の郵便制度に関して，空欄に適する語句を選択する問題。郵便制度や渋沢栄一に関する基本的な知識・理解が求められた。

問２　２枚の切手を見比べ，その改善点について述べた四文を読み，内容上の誤文を判断する問題。会話文と資料の切手が，正答を導き出すうえで重要な手掛かりとなった。

問３　切手が焼失しなかった理由について正答を選択する良問。歴史的用語が少なく，会話文の関東大震災の時期と選択肢の出来事の時期を把握できなければ判断に迷う問題であった。

問４　史料を読み取り，二文の正誤を判断する問題。約69％の受験者が正答しており，史料を丁寧に読み解くことができれば，比較的答えやすい問題であった。

問５　標語やスローガンに関する文の年代整序問題。それぞれの標語やスローガンが，どのような国内状況を背景として出されたのか理解しているかが問われる問題であった。

問６　敗戦直後の放送・メディアに関する正しい文を選択する問題。大正・昭和初期・敗戦直後の文化についての正確な知識・理解が求められた。

問７　絵はがきから歴史的事実を考察し，正文の組合せを判断する問題。絵はがきをよく見れば，ａとｂの正誤の判別は容易だが，ｃとｄの判別は正確な知識・理解を必要とした。

第２問　演劇部に所属する高校生の会話を基に，幕末から明治時代までの出題がなされた。小問は４題であったが，メモや史料，生徒の会話や発言など多くの資料を読み解き，考察することが必要であった。

問１　出来事と人物に関する二つの説明文から，正しい場所と人名の組合せを選択する問題。基本的知識が身に付いているかが問われた。

問２　幕末から明治にかけての服装や身なりに関する文の年代整序問題。正答率は約34％と低いが，Ⅲのええじゃないかの乱舞が幕末だと判断できれば，正答を導き出せる問題であった。

問３　史料を読み，二文の正誤の組合せを判断する問題。史料を丁寧に読み込めば，Ｘの正誤

の判断は容易だが，Ｙは国定教科書制度の時期を把握しておかなければ判断できない。

問４　台本に登場する人物の生涯設定について，三人の発言の正誤を判定する問題。時期を把握していることが前提となるため難解ではあるが，正確な知識・理解だけでなく，思考力・判断力・表現力等も求められる良問であった。

第３問　税が経済や社会に与えた影響をテーマに，明治から大正までの政治・外交史，経済史に関する小問を中心に出題がなされた。表や会話文，メモや史料から，情報を読み取る技能が求められた。

問１　表から会話文中の空欄に適する文を選択する問題。表を読み解き，思考力・判断力・表現力等を働かせることが求められた。

問２　地租改正がもたらした変化や影響に関するメモを基に，空欄に適する語句と文の組合せを選択する問題。紙幣発行が政府にもたらした影響や米納論のねらい，経済の仕組みが理解できなければ判断できない難解な問題であった。

問３　農民の主張に関する史料を読み，二文の正誤の組合せを判断する問題。史料を丁寧に読み解き考察する力が必要であった。

問４　日本の工業化に関する文の年代整序問題。明治維新期から大正期までの日本の工業化の推移を理解していることが求められた。

問５　史料『君死にたまふことなかれ』を読み，正しい文を選択する問題。史料の読解力だけでなく，この時期の社会情勢や雑誌，徴兵制に関する正確な知識が求められる難問であるが，史料から商人である親の気持ちを推測させる面白い問題であった。

問６　日本の関税や国際関係に関して，正文の組合せを判断する問題。日本の外交に関する正確な知識・理解と，表を基に思考力・判断力・表現力等を働かせることが求められた。

問７　表を基に税額の変化と選挙権の関係について，正しい文を選択する問題。表に即して思考力・判断力・表現力等を働かせることと，明治時代の税制と選挙権に関する正しい知識・理解が求められた。

第４問　旅をキーワードに，修学旅行の歴史と旅行の変化に関するメモを軸に出題がなされた。明治初期から昭和までの政治史・社会経済史・外交史に関する小問を中心に構成され，表や諸資料を用いた設問もみられた。

問１　空欄に適する語句の組合せを選択する問題。教育制度についての正確な知識・理解が求められた。

問２　史料を読み，二文の正誤の組合せを判断する問題。史料を読み込めば，Ｙの正誤の判断は比較的容易であった。しかしＸは，アヘン戦争の講和条約である南京条約の内容とアヘン戦争の時期について理解しておく必要があり，正答率が低い難問であった。

問３　表を基に考察し，正しい文を選択する問題。地名からどこの国のことか判断するだけでなく，関東都督府，朝鮮総督府，日中戦争といった用語の正確な知識・理解が求められた。

問４　表と史料から正文の組合せを判断する問題。正答率は約65％と高く，表と史料を丁寧に読み込めば正答を導き出せる問題であった。

問５　1912年頃の社会情勢について，正しい文を選択する問題。選択肢の記述に関する正確な知識・理解と出来事が起こった時期について判別することが求められた。

問６　沖縄に関する資料から正文の組合せを判断する問題。史料読解の技能が問われるだけでなく，沖縄返還の時期を理解しておく必要があった。

問７　戦後の日本とアジアの関係について，二文の正誤の組合せを判断する問題。世界史や公民分野とも関係する問題であり，国際社会に関する正確な知識・理解が必要であった。

第５問　アジア太平洋戦争期の空襲の災禍とその経験の伝承についてのリード文や史料・表を基に，戦時中から1970年代までの出題がなされた。政治・経済史や，日本と国際社会の関わりについて問う内容であった。

問１　日本の敗戦に至る時期の国内状況について，正しい文を選択する問題。正確な知識・理解と出来事の時期を把握しておくことが求められた。

問２　史料のビラの内容に関して，正文の組合せを判断する問題。史料を丁寧に読み解き，得た情報から考察する力と基本的な知識・理解が問われる良問であった。

問３　敗戦後の政治に関する文の年代整序問題。戦後の政党政治に関する，やや細かい知識・理解を必要とするため，受験者の正答率は約22%と低かった。

問４　史料を読み，1950年前後の出来事について二文の正誤の組合せを判断する問題。ビキニ環礁水爆実験と，『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された時期を正確に把握していなければ判断できない難問であった。

問５　1970年代の出来事について，内容上の誤文を選択する問題。この時期の政治や経済に関する正確な知識・理解が求められた。

問６　東京大空襲に関する史料を読み，正しい文を選択する問題。史料読解の技能だけでなく，出来事の時期を把握しておくことと正確な知識・理解が求められた。

問７　表を読み，資料集第１巻から第４巻の概要を把握し，この資料集を活用して探究する際に参照すべき資料集の組合せを選択する問題。表の内容を考察する力と，選択肢の文を読解する力の両方を必要とする良問であった。新傾向の問題で，問いが面白く好感が持てた。

３　分　量・程　度

問題数は大問が５題，小問が32題であり，昨年の共通テストと同じであった。日本史Ｂとの共通問題は第２問と第４問で，この配置も変更はなかった。平均点は，昨年と比べて５点ほど上昇しており，問題の中身がやや易化した可能性がある。問題に関する情報量は昨年と比べてほぼ変わらず，問題冊子は28ページであり昨年と同様であった。ただし，選択肢の文が２行に及ぶものも多く見られ選択肢を含めた文章や史料の文字数，表の数値やその内容など読解に時間を要し，60分という試験時間としては，分量がやや多かったのではないかと思われる。

問題の程度としては，学習指導要領の趣旨を踏まえ，思考力・判断力・表現力等や資料読み取りの技能等を問うものが多かった。受験者にとってほとんどが初見の史料であったと考えられるが，丁寧に読み解くことができれば，正答を導くことが可能な問いもみられた。また，出来事の時期を把握していなければ判断できない問題が多くみられた。知識・理解のみを問う問題は少なく，出来事や用語の内容や背景，因果関係や影響を把握しているか等，「知識・理解の質」が問われた。特に日本史と世界史の関わりや，公民分野との関わりを問う 20 ・ 25 ・ 29 は難解であった。しかし全体としては，正確な知識・理解を必要とする問題とリード文や問題文，資料を丁寧に読み解き，思考力・判断力・表現力等を働かせて解答する問題でバランスよく構成されており，問題の程度はおおむね適切であった。

４　表　現・形　式

⑴　形式

文章の正誤を選択する形式（10問）や正しい語句・文章の組合せ，または文章の正誤の組合せを選択する形式（12問）など正誤判定問題が22問と多く，昨年と同じような傾向であった。年代整序問題は４問で昨年より１問減り，代わって歴史用語の空欄補充は，語句と文章を合わせて４

題出題され，１問増えた。また，三人の発言の中で適しているものを選択する 11 や適した資料集の組合せを選択する 32 のような新傾向の問いがみられた。史料やグラフ，表や図等の資料を伴う問題が多く出題されたが，地図からの出題はなかった。しかし，表の地名から，満州や朝鮮半島の地図をイメージして解答する 21 のように，空間認識ができているかを問う問題が出題された。大問に関しては，３問が会話文を用いた出題で，出題形式は昨年同様の特徴がみられた。高校生の会話に演劇部の台本を絡める等，リード文に工夫がみられた。また，戦争の災禍をいかに伝承していくかといった教育的課題について，その重要性を問いかける大問もみられた。

各大問の主な出題形式は，以下のとおりである。

第１問　切手を題材に，会話文での出題形式であった。史料や記念印入り絵はがきなどの資料を使い，知識だけでなく歴史的出来事の時期を問う問題が多く出題された。

第２問　小問４題ではあるが，メモや会話文，史料が提示され，資料を考察する力や読解力を必要とする問題であった。 11 は新傾向の出題形式であり，解答に時間を要した。

第３問　表やメモ・史料を用いて，歴史事象を多角的に考察する力を必要とする問題が目立った。選択肢の文が２行以上の設問もみられ，読解力が必要であった。

第４問　表や史料から，知識や読解力等を問う形式であった。史料の読み取りと正確な知識・理解の組合せを問う 20 の問題は，昨年同様，他の大問にもみられる形式であった。

第５問　リード文と史料から，空襲の災禍とその経験の伝承について考えさせる構成となっていた。出来事の歴史的背景や正確な知識・理解を必要とする設問がみられた。

⑵　表現

受験者が難解に感じたと思われる表現はなかった。多くの史資料を用いることで，多角的な視点から歴史を考察させたいという出題者の意図が感じられた。また第５問では，歴史を考察させるだけでなく，いかに戦争の歴史を風化させず伝えていくかという社会的な課題について，受験者に考えさせる内容であった。

５　ま　と　め（総括的な評価）

今年で３回目となった共通テストでは，出題科目の問題作成方針で示された「知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題」が多くみられた。時代の範囲は，幕末期から1970年代までが出題され，昨年度のように平成時代の内容は出題されなかった。分野の領域では，政治史・経済史・外交史・文化史など多方面にわたり，領域を融合させる問題もみられた。ただし，文化史に関する出題はやや少なめであった。また，世界史や公民と関わる分野についての出題もみられ，「世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させる」という日本史Ａの目標に沿った出題がなされた。多くの設問が現行の学習指導要領の目標を踏まえて作成され，総じて教科書の内容に準拠した問題が出題された。

各大問の多くは，会話文を中心に実際の学習活動を想定した場面が設定されていた。そのため，受験者にとって問題に取り組みやすかったのと同時に，普段から主体的・対話的な学習，深い学びが重要であることのメッセージにもなっていたと考える。メモや会話文・表を中心としながらも，視覚資料の切手や演劇部の台本などを用いて場面を展開していく構成は，工夫が凝らされていて，非常に興味深いものであった。特に第５問は，アジア太平洋戦争期の空襲と，その経験をいかに後世に伝えるべきかという重要な社会的問題を問いかける内容であった。授業においてただ単に歴史を教えるだけでなく，「過去」から学び，それを土台にして「現在」を理解し，「未来」を考えていくことが大切であるということを示しており，高等学校教育における授業改善が進むことが期待できる。また，リード文の中に重要な手掛かりが隠されている問題もみられ，リード文を含めて読み

込み，思考力・判断力・表現力等を働かせることが求められた。

一方で，日本史で学習した知識がなくても，文章読解等の技能があれば解くことができる問題がいくつか見られた。資料読み取りの技能や文章の読解力はもちろん必要な力ではあるが，今後も学習指導要領で求められる知識・技能を基に，それらを活用して資料等から課題を多面的・多角的に考察し，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題作成の更なる工夫を期待したい。

最後に，共通テスト出題者と作成者の方々の多大なご尽力に，心から敬意を表します。

日　本　史　B

1　前　　文

３年目の共通テストとなる。日本史Ｂの受験者数は137,017人，平均点は59.75点であった。

全科目共通の問題作成方針に加えて，日本史の問題作成方針には，「事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお，評価に当たっては，14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

2　内　容・範　囲

第１問　地図から考える日本の歴史について調べた高校生二人の会話を基に，原始・古代から近代に至る政治・外交史，社会史及び経済史について問う問題。

問１　古代の行政区分に関する史料を読み，四文の中から正文を判断する問題。史料読解の技能と，大化の改新及び大宝律令の制定の時期についての知識が求められる。

問２　中世における東アジアの出来事について述べた三文を読み，古いものから年代順に配列する問題。室町期における日本と東アジアとの交流及び動向に関わる理解が求められる。

問３　古代・中世の境界に関する説明を読み，正誤の組合せを判断する問題。説明の内容を読解する技能と，古代の関と中世の北方世界に関わる理解が求められる。

問４　国絵図に関する会話文中の空欄に適する文の組合せを選択する問題。資料読解の技能と，江戸後期の蝦夷地の状況及び日露関係に関わる理解が求められる。

問５　近代における測量や海図について述べた二文を読み，適する語句の組合せを選択する問題。明治初期の日朝関係及び大戦景気についての知識が求められる。

問６　地図から日本の歴史を考察した四文を読み，二つの正文の組合せを選択する，大問の総括的な問題。会話文，設問文及び資料を読解し，統合する思考力・判断力・表現力等が求められる。

第２問　日本古代の陰陽道の歴史について述べた文章を基に，縄文時代から平安中期の政治・社会史及び経済史について問う問題。

問１　陰陽道が成立する以前の日本列島の信仰のあり方に関して述べた四文の中から，正文を判断する問題。縄文から古墳時代の信仰対象についての知識が求められる。

問２　律令体制下における役所について述べた二文を読み，適する語句の組合せを選択する問題。律令体制下の中央行政組織についての知識が求められる。

問３　死後に怨霊となって祟りをなしたと言われている人物について述べた三文を読み，古いものから年代順に配列する問題。奈良時代から平安中期の政治史に関わる理解及び思考力・判断力・表現力等が求められる。

問４　古代社会における暦の影響に関する二文を読み，正誤の組合せを判断する問題。文章及び史料を読解する技能が求められる。

問５　古代の陰陽道や貴族の生活について記した四文の中から，二つの正文の組合せを選択する大問の総括的な問題。文章及び資料を読解し，そこから得た情報と貴族の生活に関する知識を統合する思考力・判断力・表現力等が求められる。

第３問　中世の京都について調べた高校生二人の会話を基に，平安末期から戦国期の政治史，社会・経済史及び文化史を問う問題。地図，史料，模式図と多様な資料が用いられた。

問１　戦国時代の京都における商業の中心地を調べる方法について述べた二文を読み，適する語句の組合せを判断する問題。会話文及び資料を読解する技能と，同時代の社会・経済に関わる理解が求められる。

問２　平安京の周辺に造られた寺院について述べた三文を読み，古いものから年代順に配列する問題。平安中期から鎌倉期の仏教寺院についての知識が求められる。

問３　撰銭令に関する史料を読み，二つの正文の組合せを選択する問題。二つの史料から撰銭令が発令された目的を読解し，その背景について考察する力が求められる。史料にある情報の読み取りのみならず，その背景までを考察しなければならない難問であった。

問４　京都で花開いた芸術や文化について述べた四文の中から，内容上の誤文を判断する問題。平安末期から室町後期の芸能・文化についての知識が求められる。

問５　中世における経済の動きを示した模式図を基に，中世の財貨の動きを示した語句の組合せを選択する問題。中世の経済に関する正確な理解と考察力が総合的に求められる。

第４問　江戸時代における人々の結びつきに関する高校生二人の会話を基に，江戸期の政治・外交史，社会史及び文化史について問う問題。

問１　会話文中の空欄に適する内容の組合せを選択する問題。参勤交代及び江戸期の水上交通の役割についての理解及び知識が求められる。

問２　江戸期の仲間・組合やそれに関わる政策について述べた三文を読み，古いものから年代順に配列する問題。江戸期の商業に関わる理解と思考力・判断力・表現力等が求められる。

問３　江戸後期に刊行された文化人名簿に関して述べた二文を読み，二つの正誤の組合せを選択する問題。同時期の学問・思想に関する理解と，資料読解の技能が求められる。

問４　日本船が中国に漂着した様子を記した史料を読み，四文の中から二つの正文の組合せを選択する問題。史料を正確に読解する技能とともに，同時期の幕府の対外政策に関わる理解と知識が求められる。

問５　江戸時代における人々の結びつきについて述べた四文を読み，正文を選択する問題。会話文を読解する技能と，同時代の政治・社会史，文化史に関わる理解が求められる。

第５問　演劇部に所属する高校生二人の会話を基に，幕末から明治期の政治・外交史及び社会・文化史について問う問題。

問１　劇中の設定人物の生没年間に起きた出来事について述べた二文を読み，適する語句の組合せを選択する問題。幕末から明治期の政治・社会史についての知識が求められる。

問２　服装や身なりに関して述べた三文を読み，古いものから年代順に配列する問題。幕末から明治初期の日本国内の情勢に関わる理解及び思考力・判断力・表現力等が求められる。

問３　岸田（中島）俊子が発表した史料を読み，二文の正誤の組合せを判断する問題。資料読解の技能と，明治期の教育制度についての知識が求められる。

問４　高校生三人の会話を読み，正誤を判断する問題。明治期の政治・社会に関わる知識と発言中の内容を照合する思考力・判断力・表現力等が求められる。

第６問　「旅」をキーワードに調べた学習について述べた資料を基に，明治～昭和時代の政治・外交史及び社会・経済史について問う問題。

問１　師範学校について述べた文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。明治期から戦後期の教育制度についての理解と知識が求められる。

問２　明治後期の修学旅行生の上海での体験記を記す史料に関して述べた二文を読み，正誤の

組合せを判断する問題。史料読解の技能とともに，アヘン戦争による中国の開港場についての知識が求められる。

問３　1938年の修学旅行の行程表を基に，四文の中から正文を判断する問題。資料読解の技能とともに，明治後期から昭和初期の東アジア諸国との関わりにおける総合的・系統的な理解及び思考力・判断力・表現力等が求められる。

問４　炭鉱労働者に関わる表と史料を基に，二つの正文の組合せを選択する問題。表や資料を正確に読解する技能が求められる。

問５　1912年前後の国内情勢を記す四文を読み，正文を判断する問題。明治後期から大正期における政治・外交史及び経済史に関わる理解が求められる。

問６　沖縄国際海洋博覧会に関する新聞の見出し一覧を読み，二つの正文の組合せを選択する問題。沖縄が返還された年についての知識と，資料読解の技能が求められる。

問７　第二次世界大戦後の日本とアジアの関係について述べた二文を読み，正誤の組合せを判断する問題。冷戦下における国際情勢についての理解及び知識が求められる。

３　分　量・程　度

⑴　分　　量

ページ数は，昨年度の共通テストからの大きな変化は見られず，計32ページであった。問題数は大問６題，小問32問で，うち第５問と第６問の計11問（34点）が「日本史Ａ」との共通問題である点も，昨年度を踏襲した構成となっている。60分の試験時間を考慮すると，大問・小問の数，問題に関わる情報量ともにおおむね適正であったと言える。

昨年度の出題においては，図や模式図の出題が見られなかったが，本年度は地図や統計資料，模式図，新聞の見出し一覧など多様な資料が登場した。写真を用いた出題はなかった。政治史，社会・経済史，外交史，文化史といった諸分野が横断的にバランスよく出題されていた。

⑵　程度

問題の程度については，学習指導要領が求める資質・能力を逸脱してはおらず，知識・理解の質や思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置され，総じて適正であった。昨年度に引き続き初見の資料が多数引用されたが，設問の趣旨は，歴史の考察に有効な諸資料を正確に読み取り，知識と結び付けて活用する点にあり，歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば，決して難易度の高いものではない。文字資料については，脚注を参考にすれば，正確に判断できるようになっているとともに，難解なものについては現代語訳がされているという配慮がみられた。

４　表　現・形　式

⑴　表現

全体を通して，語彙や表現に難解さを感じた箇所は見当たらなかった。

なお，別記のとおり本年度は，昨年度よりも多様な資料を用いた出題であり，思考力・判断力・表現力等を発揮することに大いに効果的であったと思う。次年度以降も多様な資料を用いた設問を期待するが，受験者が資料と設問との関連性を明確に把握できる工夫をお願いしたい。

⑵　形式

小問における設問の形式としては，昨年度と同様，二つ以上の語句あるいは文の正誤の組合せを選択するものが多く，過半数にのぼった。歴史的事象を記した文を年代順に配列する設問は，昨年度より１題減った。人物名や事件名を示さずに文の内容から出来事を判断させる形式は，歴

史的事象の確実な理解を求めるものであり，単なる用語の暗記からの脱却を示唆しており，歓迎したい。四文を読み，内容上の誤文を選択する設問は，１題（ 15 ）のみの出題で，昨年度の４題に比して減少した。また，共通テストでは初の８択の設問（ 16 ）があった。

昨年度と同様に，資料を基に二文あるいは四文を読み，内容上の正誤を解答する設問では，資料の読解により得た情報で判断する選択肢と，知識・理解あるいは思考力・判断力・表現力等を発揮して判断する選択肢が同一小問中に混在するケースが散見された（ 20 ・ 27 ・ 31 など）。受験者が解答に際して判断の根拠や基準を両者のいずれに依るべきか混乱しないような，表記上の工夫と改善を望みたい。また， 16 は，模式図中の矢印に該当する語句を八つの選択肢から判断する設問であったが，模式図中のＸ，Ｚを示す矢印が一つずつであり，両者の解答を導き出せば，選択肢を２択に限定することができる。８択という特長をより生かした出題上の工夫を今後期待したい。

５　ま　　と　　め（総括的な評価）

本年度の問題を総括すれば，出題内容については，基本的事項の正確な理解や知識，資料を基にした思考力・考察力・表現力等を問うものであり，受験者の培ってきた資質・能力を評価するのにふさわしいものだった。昨年度よりも多様な資料に基づく出題は，図版や文字資料のみならず，身近な生活に関わるものが教材として活用できることへの提言でもあり，授業改善の視点として参考にしたい。出題範囲についても，時代・分野・領域の全てにおいて極端に大きな偏りは感じられず，おおむね適切であったと言える。ただ， 24 ・ 26 のように近現代の教育制度を問う，近似した時期における類似した内容を問う設問があったことを指摘しておく。

最後に，共通テストにおいて求める知識・理解及び思考力・判断力・表現力等に対する若干の所見を記して，本稿を締めくくりたい。 27 のアヘン戦争後の中国の開港場（上海）に関する設問だが，日本史Ｂの授業での扱いが少ないため，正答率が約38％と低くなったと推察している。多様な受験者が参加する共通テストの性格を踏まえた上で，求める基本的な知識及び理解の程度について，今後検討いただきたい。次に， 14 の撰銭令が発令された背景を史料から考察する設問である。史料を正確に読み取り，その歴史的背景について考察するという，歴史学における分析手法に基づいた思考力・判断力・表現力等を求めるという洗練された設問ではあるが，正答率約９％という最も低い結果であった。その原因として，第一に受験者が永楽通宝などの輸入銭を良銭としてのみ捉えていること，第二に史料が出された歴史的背景について，客観的に考察することに不慣れであったことが推察される。史料の読解を通して得た情報のみを用いて判断するのか，学んだ知識と得た情報を結びつけて判断するのかについて，受験者が明確に判断できる設問文または史料の工夫を再考していただければ幸いである。今回の試験は，歴史の学習が知識の習得のみならず，歴史的事象に関する資料読解の技能や思考力・判断力・表現力等の育成を目指すものであるということを示唆している。出題者及び作成者の方々の多大な尽力に，心から敬意を表します。